

# 羅針盤



社会科部 情報活用委員会

## へき地校の社会科授業を参観して

社会科部長 平岩 和博

10月22日(水)~24日(金)まで全国へき地教育研究大会群馬大会に行く機会を得ました。全体会と分科会は高崎市、分散会は高崎市の群馬音楽センターからバスで2時間ほどの中之条町の六合中学校にて行われました。六合地区は、群馬県北西部にあり、長野県と隣接する山里。六合は「くに」と読み、小雨、赤岩、生須、太子(おおし)、日影、入山の六つの村を明治22年の村制によって一つとし、「天地四方を以って六合(くに)と成す」という古事記に由来して命名されたと言われています。

昨年8月に中之条町教育委員会の課長・係長のお二人が私の勤務する額田中学校の寮を視察に来られました。これは、過疎化に伴い、生徒数が減少している中之条町立六合中学校の閉校を見据えて、中之条中学校と統合し、寮を設置する計画があり、インターネットで調べての訪問でした。つまり、全校生徒37名の小規模校の六合中学校に、存続の危機が迫っていたのです。

六合中学校は、どの学年も1学級で、保育園、小学校とも同じメンバーで過ごしてきた仲間です。互いに認め合い、思いやることのできる信頼関係ができあがっていました。参観した3年(男子9名、女子5名)の社会科の授業では、単元「地方の政治と自治」で「六合地区をよりよくするためには、私たちはどのように関わっていくことができるだろう」と課題設定をして各自がよりよいまちづくり案を発表していました。「鉄道の駅をつくる」「大型スーパーをつくる」「総合病院を誘致する」などの案が出されましたが、現実的にはなかなか難しいものばかり。

全国の間へき地でも過疎化が進み、何とか地域の活性化を図ろうとしています。しかしながら、政治は「費用対効果」という基準で物事を押し進め、山間へき地は、つぎ込む費用に対して利用者数が少ないと判断されて様々なものが省かれています。中でも学校の存続問題は、その地域の過疎化に拍車をかけるか否かの指標とも言えます。六合中学校の校長先生に六合中学校の統合問題をお聞きすると、間髪入れず「地区の皆さんは、中学校の存続を強く希望しています！」との返事が返ってきました。地方再生戦略、地域活性化という言葉をお聞きします。これらの政策が、私たちに空気、水、木材、魚、山菜などの多くの恵みをもたらすへき地の活性化につながることを祈らずにはられませんでした。



中之条町立六合中学校の校舎

## おかざき学習実践報告

### 【六ツ美中学校】<2年生>「徳川家康」の実践

本実践では、徳川家康が天下を取り江戸幕府を成立させることができた背景に、岡崎出身の頼りになる家臣がいたことに生徒たちが気づくことを目標としました。実践を進める上で留意した点は、①本時を「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の授業の直後に行ったこと、②地図帳を使い、桑名がどのような場所にあるのかを確認したこと、③忠勝を桑名に配置した徳川家康の気持ちも考えることによって、面的な見方ができるようにしたこと、の3点です。

副読本「岡崎」から本多忠勝の活躍の様子を読み取った生徒たちは、「家康は、忠勝なら桑名を任せでも大丈夫だと思ったのではないか」といった、忠勝に信頼を寄せる家康の姿を捉えました。また、「忠勝も桑名を守ることは家康の期待に応えることで、うれしいと思ったのではないか」というように、家康に忠誠を尽くす忠勝の気持ちを考えました。

単元終了後の授業日記にも、「忠勝は、天下が取れるくらいの実力はあったと思うけど、生涯家康に仕えるという覚悟とかが本当にかっこいいと思いました」とあり、家康が天下を取った背景には、忠勝のような忠義心あふれる武士の存在があったことに気付けたようでした。



(鈴木 俊宏)

【長篠の戦いで指揮を執る本多忠勝(左端)↑】

### 【福岡中学校】<2年生>「徳川家康」の実践

昨年2015年は、家康公が薨去されて400年の節目の年。その前年の今年は、プレ事業ということで、岡崎・静岡・浜松の三市で、家康公検定が行われました。そこで、本実践では、少しでも深く家康公のことを知るといふことで、その家康公検定の予想問題をつくろうという形で授業を行いました。

副読本「おかざき」を基礎資料とし、生徒の持っている資料『土呂の文化財めぐり』（福岡学区文化財保存委員会発行）も使って調べ学習を行いました。そして、調べたことをもとに家康公にかかわる問題を作成しました。福岡中学区には、土呂御坊と呼ばれる一向宗の一大拠点がありました。それにかかわっての三河一向一揆の問題もありました。

今回の学習をきっかけに「夏休み自由研究」で学区内にある文化財調べをする生徒がいました。郷土岡崎・福岡に目を向ける生徒が増えることを願って実践を続けたいと思います。

（鈴木 彰）

※ 家康公400年祭記念【第2回 家康公検定】にむけて、予想問題を作るのだ。問題は四択なので。

問題	正解
1 徳川「松平」が「家康」に改名したのは何年か。 ア-1563 イ-1574 ウ-1565 エ-1566	エ
2 家康の行状に「木食」の地名は？ ア-四ヶ国検定地 イ-五ヶ国検定地 ウ-五ヶ国検定地 エ-四ヶ国検定地	ウ
3 元康が桶狭間の戦いで「食料」を届けた 糸織田「某」の土城の名前 ア-忠祥 山城 【生徒が作成した予想問題】 大山 山城	イ

### 【緑丘小学校】<6年生>「徳川家康」の実践

「3人の武将」の学習を始める前に、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康のうち、1人を選ばせ、個々に一人調べを行うことにしました。徳川家康については、教科書に加え、「郷土読本」を使って詳しく調べました。また、徳川家康の情報ばかりが偏らないように、信長と秀吉についても、さまざまな資料を提示しました。さらに、調べていく過程で、3人の武将の業績や人物像について、各自が持つ情報を交換し合う場を設定することにより、共通の基盤で話し合いに参加できるようにしました。三英傑に関する業績や人柄について発表し合い、それらを比較して、天下統一に3人が果たした役割について話し合いました。発表し合う中で、信長は商業政策、秀吉は人的被害を抑える戦い方、家康の受けた恩を必ず返そうとする義理堅い人柄など、3人の人物の独自の良さを共有することができました。発表後に、「やることも性格も違うけれど3人とも戦のない平和な世の中にしたいと思っていたと私は考えました」「最初は戦国時代の人は人を殺してしまう人ばかりだと思っていたけれど、戦をやめたい、平和な国を創りたいという気持ちを持っていて、優しい面もあるのだと分かりました」などの意見が出ました。

一人調べを詳しく行い、それを共有して比較をすることで、家康、信長、秀吉のそれぞれの良さに気付いたり、自分の選んだ武将にさらに愛着をもったりするなど、自分の考えを深めることができました。（金田 一良）



【自分の調べた内容を発表する児童】

### 【矢作東小学校】<6年生>「徳川家康」の実践

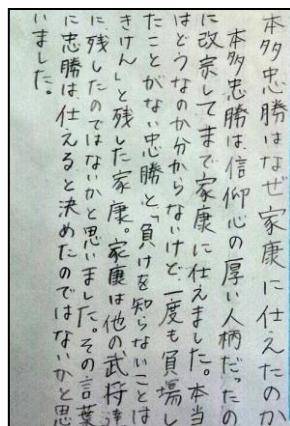
徳川四天王を学ぶことで、家康の人物像を考えることを狙い実践しました。

導入で、子どもたちが抱く家康の人物像を明確にしました。「江戸幕府を開いた人」と家康の業績に着目する子どもが多くいました。そこで、家康の人柄に着目させるため、郷土読本「おかざき」にある遺訓を用い、家康の人物像を考えました。「がまん強い」など意見が出ました。第2時で、前時で考えた家康の人物像に、家康の一生の出来事を重ねました。

第3時で「徳川四天王はなぜ家康に仕えたのだろう」と発問し、遺訓から考えた家康の人物像から、徳川四天王が家康のどんな人柄に惹かれたのかを予想しました。話し合いの結果、①計画的・冷静、②自分に厳しく、人にやさしい、③がまん強く、苦しさを乗り越える、の三つに意見が収束しました。そこで、話し合った予想を確かめるため、家康館・岡崎城の見学（第4・5時）に行きました。三つの視点を与えていたため、有意義な見学になりました。第6時で、見学のまとめをしました。見学で見つけた、徳川四天王が家康に仕えた理由を入れてまとめました。

第7時で家康の一番の魅力について考えました。「一番の魅力は、自分に厳しく、人にやさしいところです。なぜなら、家康が残した遺訓は、他の人への願いだと思います。自分の人生から、正しい人生を教えているからです」と家康の人柄について、深く考えられるようになりました。

この実践を通して、当初は家康の業績に目を向けていた子どもたちが、四天王を通して、家康の人柄についてより深く考えられるようになりました。「がまん強い」「負けを生かす」家康により親近感をもつことができました。（加藤 周司）



【第6時 見学のまとめの紙】